

午後 I 試験

問 1

問 1 では、人材管理システムの構築を例にとり、複数のステークホルダの様々な要求に対し、どのように応えるか、全体のスコープをどのように定義していくかなどについて出題した。全体的に正答率は高かった。

設問 1 では、ステークホルダの要求の背後にある問題点を理解し、その影響度から要求の優先順位を把握する点を解答してほしかったが、単に“要求を整理するため”という表面的な解答が多かった。また、要求と要件を混同している解答も多かった。

設問 3(2)では、人事部、営業部門の要求がともに人材情報を迅速に把握したいという点で一致していることを理解し、具体的に説明してほしかった。プロジェクトマネージャ (PM) は、ステークホルダの要求に対してどのように応えるか説明し、理解を得て協力してもらうことが大切であることに留意し、常に、具体的、論理的に説明する習慣を身に付けてほしい。

問 2

問 2 では、進捗管理、資源管理、リスク管理の実務的な側面について出題した。進捗遅れとなり、プロジェクト全体に関わるリスクを抱えることになったプロジェクトのリーダーについて、そのリスクを特定する設問に対する正答率は高かった。

設問 1 では、“標準的なプロジェクトマネジメント体系に合わせる”というアドバイザーの最終目的を明確に意識して解答してほしかったが、そこまで言及していない解答が多かった。

設問 2(1)は、親アクティビティの進捗率を算出するための加重平均の計算に、子アクティビティの計画工数ではなく所要日数を用いている事例を示して、正しい計算の方法を問うた。これに対し、“子アクティビティを単純平均にする”といった、親アクティビティの進捗率を正確に算出できない解答が散見されたのは残念だった。定量的な進捗の把握について、基礎をしっかりと再確認してほしい。

問 3

問 3 では、生産管理システムの再構築を例にとり、“現システムの仕様どおり”という要求に内包されるリスクの認識と、契約面、スケジュール面などでの対応策について出題した。全体的に正答率は高かった。

設問 2 では、“現システムの業務機能は変えず”という、実際には明確になっていない仕様ではなく、新たに作成した外部設計書の仕様に基づいた請負契約とすることがリスクを回避する上で重要である点を理解してほしかった。“明確になっていない現システムの仕様をできる限り取り入れる”という姿勢は、結果としてスコープを確定できず、大きなリスクとなることを理解してほしい。

設問 4(1)では、総合テストにおいて本番データによるテストを実施しても、必ずしも現システムの仕様の全てのケースを網羅していないという観点から解答してほしかったが、現システムの設計ドキュメントが改定されていないなど、設計段階の課題に関する解答も目立った。プロジェクトの状況に応じたリスク対応の視点を持つ習慣を身に付けてほしい。